

1. 活動報告（事務局 記）

—5月2日（日）会員16名が参加し、水路の溝上げおよび周辺の草刈り、草原の草刈りの作業を実施しました。作業前には、事務局長および会長より以下の事項について説明がありました

- ・5月27日に実施される中電のボランティア作業について
- ・水路内に滞留する落葉の状況
- ・ビオトープで焼却を行う際の留意事項

—5月15日（土）親子自然観察隊は野鳥観察でした。雨は降ったり止んだりの中で、ビオトープから二俣瀬小学校、厚東川の左岸・右岸などで21種の野鳥を確認しました。参加者は、親5名、子7名、講師の渡辺さんと会員14名でした。

—5月22日（土）臨時作業として駐車場の草刈りを、原田会長と吉富・渡辺会員で行われました。

—5月23日（日）自主的に参加された方9名で作業を行いました。草刈りの後片付けと明日のボランティア活動のための竹林整備を行いました。

—5月24日（月）中国電力ネットワークの方（約20名）がボランティア活動として、ビオトープそばの竹林整備に来られました。2班が時間をずらして午前中の作業（主に切った竹の運搬）を行われました。雨天の中、6名の会員と支援センター岡崎さんで対応しました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎行 事

—6月6日（日）維持活動（草刈り、エコアップ）

—6月20日（日）維持活動（草刈り、エコアップ）

3. 来訪者の声

★5月4日(火) 山口市 えま

新かん線のみえる所まで歩きました。川や池やたきがたくさんありました。水車が大きくてびっくりしました。(はじめてです。)

★5月23日(日) 宇部市より

トンボを目当てに立ち寄りました。たまたまボランティアの方々が整備されており、その中のトンボに詳しい方から貴重な話をたくさん聞かせて頂きました。思いもかけず有意義な時間が持て、大変感謝しています。皆様の地道な努力に頭が下がります。

4. 会員の声 【休 耕 田】 (原田満洲夫 記)

本年度は都合あって休耕とする田んぼゾーンの今時分は稲作体験で粗鋤が終わって代掻きの時である。3月末に粗鋤をし水を満タンとして第二のため池ゾーンになっている。

水管理が大変・雑草対策・苗の購入のわずらわしさ等々で稲作体験を今年中止したものの、水草がそれも稲にとっては害をする「コナギ・イボクサ・稗」が多量に発芽し生育している。手を省いた計画であったが、ビオトープである限りこの草取りは農薬も使えず、会員の手で取るしかないのか？

日本の工業振興政策に対して農業政策がほったらかしになり食糧難の時代が来ることは見えている。それを見越して次世代の農業経験のない大人や子どもの為稲作体験を始めた記憶している。ビオトープを創った「水環境創生事業」の主目的ではなかったのか？

夫婦カモ 雛を従え 迎え田へ たくさんの水をためて待っている。

5. 親子自然観察隊(野鳥観察) (菅 哲郎 記)

今日もあいにくの雨模様、どんよりと曇っていた曇り空でしたが、スタートするときには雨になってしまいました。雨は思ったほどでもなく途中から小やみになり、傘を差さず観察できました。講師に「宇部野鳥保護の会」より渡辺さんをお願いし、野鳥の説明、鳥の声などを教えていただきました。

最後に“鳥合わせ”を行い、今日見た、声を聴いた鳥たちの種類をまとめ、終了しました。今回は21種類が確認されました。いつもより少し少なかったようですが、雨の影響が多少あったのかもしれない。

アオサギ・ウグイス・カルガモ・カワラヒワ・キジバト(ヤマバト)・シジュウガラ・スズメ・セグロセキレイ・ダイサギ・チュウサギ・ツバメ・ドバト(カワラバト)・トビ・ハシブトガラス・ハシボソガラス・ヒバリ・ヒヨドリ・ホオジロ・メジロ・ヤマガラ・シジュウガラ



講師の説明を聞く隊員たち



雨の中観察に出発しました



観察する隊員たち、雨も上がりました

親子自然観察隊の感想

★秋田理莉

色々な鳥が見られてよかったです。「ウグイスの 声が聴こえて キレイだな」と俳句を詠んだそうです。

★秋田菜那

鳥とカエルが見られて嬉しかったです。

★渡邊萱

ツバメの種類が分かった

★渡邊芹

鳥が沢山いて、どんなのが居るか、どんな声かがわかった。最後の説明会でもっと良くわかった。

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(63) クロスズメバチ *Vespa flaviceps* スズメバチ科

ハチの中でも特に「スズメバチ」は怖いと思っっているでしょうが、思ったより怖くないスズメバチです。ハチ類は主に夏から秋にかけて盛んに活動しますが、クロスズメバチは冬でも活動します(活動期：4月～11月)といっても雪の日や、曇りの日にはあまり見かけませんが、寒くても晴れの日には花の蜜を吸いにサザンカの花などでよく見かけます。

秋に巣の周りをブンブン飛び回るクロスズメバチを見つけ、巣穴の近くで観察しましたが、攻撃されることはありませんでした。オオスズメバチなどではあつという間に猛攻撃を受けますので、絶対に巣の近くにはゆかないことです。

中部地方や東北地方では、このハチを狩るハンターがいます。秋にカエルの肉を小さく割り、目印の綿をつけておき、クロスズメバチが運ぶのを数人で追いかけて(スガレ追い)、巣を見つけるのです。巣は山の斜面の土の中などに作られますので、ハチを駆除した後ハチの巣を掘り出して、おいしいハチミツを採集します。



10月 杉の幹に止まる



11月 萩市佐々並 溪流沿いで

宇部市奥万倉 11月

巣の出入り口で
出入りするクロスズメバチ



参考文献

梶 真史ほか、2017. ポケット図鑑日本の昆虫 1400

① チョウ・バッタ・セミ、319pp, (株)文一総合出版、東京.

藤丸篤夫、2014. ハチハンドブック、104pp, (株)文一総合出版、東京.

三木 卓、2006. 日本の昆虫、255pp, (株)小学館、東京.

7. 会よりの連絡事項

1) 新入会員の紹介（井原会員から招待され参加されました）

早崎由美子さん（山陽小野田市叶松1丁目）

8. 編集後記（大野 靖子 記）

我が家に引っ越してから、7年になります。庭の木は、どれも膝丈位の高さで買ってきて植えていったものです。成長の早さの違いから、もうずいぶん高く育ったものから、まだ私の身長も全く超えていないものと色々です。サルスベリなども、早く育って、満開の花の様子を見せてほしいのですが、いっそ大きくなりません。それでも日射しがきつい我が家の庭で、最初は大丈夫かなと思っていましたがなんとか育ってくれているのでありがたいです。今花をみせてくれているのは、カシワバアジサイ、シモツケ、スモークツリー、バラ、セイヨウガマズミ、サクラウツギ…です。どれも園芸品種です。まるっきり自然の中でしたら、これは外来品種だから×など考えないといけないでしょうか、この庭は私の庭なので、好きに植えています。四季それぞれに咲く樹種をイメージしながら植え、楽しみます。日かげが全くない庭でしたが、最近ではこれら木々のおかげで日かげができ、山野草もうまく育ってくれるようになってきました。そんなに広くない庭ですが、在宅が多い最近、ちょこちょこさわるのは楽しいですね。